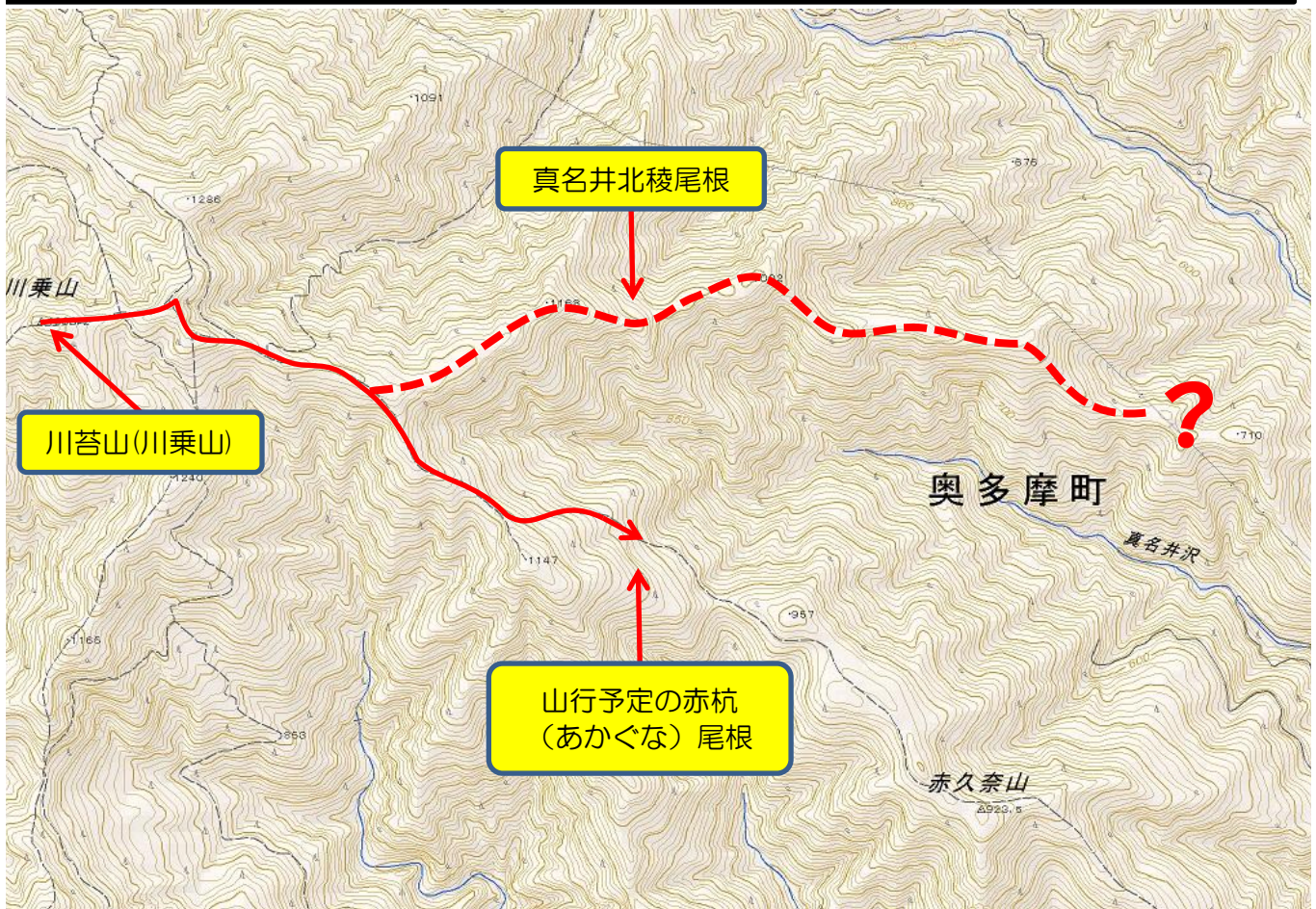


川苔山(川乗山)道迷い(2013年10月)

下りの尾根分岐で赤杭尾根の予定が、真名井北稜尾根に迷いこむ。最初は道がしっかりしていたが、途中で道が無くなる。典型的な道迷いパターン。運よく人に出会い事なきを得た。



解説

下山の尾根分岐で道に迷う。きれいな尾根道が続いていたので、まさか地図に載らない道だという発想も無かった。途中から徐々に道が荒れてきても、「こんなに荒れてるなら地図に注意書きがあってもいいのに」くらいしか考えなかった。

道は荒れる一方で、登山道といえない斜面をいくつか下り、時々現れる平坦な場所を登山道と認識し「少し歩きにくいな」としか意識せず約1時間歩いた。「きれいな尾根道はすべて地図に載っている。」と思っていたのだ。

しかし、すべるような道なき斜面を下って初めて「さすがにこれはおかしい。登山道から外れた。」と認識した。登山道と思われるところまで少し戻り、また進み。戻り。修正して進み。を繰り返す。体力と時間が無駄に消費する悪循環のパターンに陥っている。運よく、沢登りの2人に出会い同行してもらって事なきを得た。

2つの典型的道迷いパターンが含まれている事例。1つは下りの尾根分岐で最初は道がはっきりしているが、途中から道が無くなるパターン。もう1つは進む。不安で戻る。また進む。を繰り返すパターン。2つ目のパターンは心理的に冷静でないため起こる行動だ。1時間進んでも1時間戻ればよいのだが、道迷いは戻ることを許さない。

普段から「道迷いは、戻る以外に道は無い。」と思うこと。「あれっ！おかしい」と思ったら、「このまま進むと死んじゃう」ぐらいに、とことん「ネガティブ」になってもらいたい。